

良い病院とは？



「良い病院とは？」との質問に対して、どう答えるか。約27年間、大学で教育に従事していた際、医学科および保健学科の学生に質問してきた。様々な興味深い回答が得られたが、私の回答はと言えば、良い病院とは自分自身や自分の大切な家族が病気になった時、この病院にかかりたいと思える病院である。従って、「良い医療人とは？」という質問に対しては、自分自身や大切な家族を任せられる信頼できる人物ということになる。学生には、医療人になった際には、その時々において自分自身が自分を任せられる人間であるかを客観的に振り返るように指導してきた。

多くの患者は、レベルの低いそこそこの医療を受けたいとは思っていない。従って、世界的に見ても最高水準の医療を提供することが病院には求められている。もちろん、心臓移植などの特殊な医療技

術は除かれるが、現在ではインターネット等を介して、文献を初めとして容易に最新情報の収集が可能である。また、医療技術を学ぶ様々なシステムも利用できる。さらに、多くの疾患に関しては診断ガイドラインや治療ガイドラインが策定されている。すなわち、医師のみならず医療人は自分自身の努力によって、高い医療レベルを維持し提供できる環境は整っている。言うまでもなく我々医療人は、最高の医療を提供することでその対価を得ているプロフェッショナルである。プロとして相応しい医療サービスを提供するのは当然であろう。

それでは、優れたプロの集団であれば良い病院なのであるか。実は、そのことを前提とした総合力こそが最も重要であると考えている。病院内の事務を含めた医療に関わる全ての職種の纏まりによる総合力こそが重要である。リオ五輪の陸上男子400メートルリレーでの銀メダルの獲得や、平昌五輪の女子パシュートでの金メダルの獲得の快挙は、正に総合力の結集の証左である。

倉敷平成病院は200床余りの小規模病院ではあるが、病床数で病院の質が決まる訳ではないことは言うまでもない。



神経放射線センター長 臨床研究教育長
放射線科

おがわ としひで
小川 敏英先生

このことは、私がかつて勤務した僅か150床に満たない病院・研究所が世界的に評価されていることから明らかである。

倉敷平成病院に勤務する機会を得て、これまで以上に総合力を発揮できる環境を整えるために、時には良き接着剤として、また、時には潤滑油として、微力ながらも倉敷平成病院の発展に貢献すべく努力したいと思っている。

小川先生は今年度4月より神経放射線センター長 兼 臨床研究教育長として着任されました。



Doctor's Eyes